

★ 教員・保育士として勤務する本学卒業生対象 ★

ホームカミングデー

主催：武庫川女子大学 学校教育センター

教員・保育士として頑張る全学科の卒業生みんなで集いましょう！

教員・保育士になって迎える夏休み。日々、新しいことに挑戦していく中で、少し学生時代が恋しくなる頃でしょうか。子供と毎日楽しく過ごしている人。いろんな課題に直面して悩んでいる人…。ここで一息ついて、教育がテーマのドキュメンタリー映画を視聴したり、教員・保育士として頑張っている仲間や教職を目指す在学生と語り合ったりして、大学（ホーム）で楽しい一時を過ごしませんか？是非、ご参加ください♪

開催日：2022年8月7日（日） 13時15分～16時20分

◆場所：武庫川女子大学 学校教育館

◆対象：教員・保育士として勤務する、概ね5年目までの全学科卒業生

◆内容：13：15～ 歓迎の言葉 （下記のプログラムは全て自由参加です）

13：20～ 映画「みんなの学校」上映会

不登校ゼロを目標とした学校作りを目指す大阪市立南住吉大空小学校（現・大阪市立大空小学校）を取材し、第68回文化庁芸術祭大賞などを受賞したドキュメンタリー。ごく普通の公立小学校でありながら特別支援教育の必要な児童も同じ教室で学び、互いの違いを理解し尊重し合う子供たちを育てる同校の教育について学ぶことができます。

15：00～ 教員・保育士の情報交換会・相談会

Aグループ（幼・保） 進行 教育学科 鶴 宏史 先生

Bグループ（小・特・栄） 進行 教育学科 酒井達哉 先生

Cグループ（中・高・栄） 進行 健康・スポーツ科学科 長井勘治 先生

15：50～ 在学生との交流 <採用試験対策や仕事内容についての助言>

16：20 閉会

◆申込期間：2022年4月1日（金）～7月31日（日）

◆申込方法：2種類のどちらからでもお申込可能

【メールの場合】kshien@mukogawa-u.ac.jp まで、下記情報をお送りください。→

8月1日に受付完了メールを返信します。

[件名]2022 ホームカミングデー

① 氏名 ②フリガナ ③卒業学科（「大教」など略称で） ④勤務校園 ⑤ 電話番号

⑥ 参加を希望するプログラム（ア 映画 イ 情報交換会 ウ 在学生との交流）

【Classroomの場合】下記のClassroomに登録し、添付のフォームに入力してください。

クラス名：研修・イベント【学校教育センター】

クラスコード：zznc3tb

*新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によってはオンライン開催に変更します。

学校教育センターのHPに詳細を掲載します。

正規採用、講師(常勤・非常勤)採用は問いません。

お気軽にお問合せ、ご参加ください♪もちろん参加費は無料です！



<お問合せ先>

武庫川女子大学 学校教育センター 教職支援課

TEL:0798-31-0243 E-mail:kshien@mukogawa-u.ac.jp

ホームページ:http://www.mukogawa-u.ac.jp/~shikaku/





大空は
明日へつづく

みんなの学校

出演:大空小学校のみんな

監督:真鍋俊永 ナレーション:豊田康雄 企画:迫川緑 プロデューサー:中尾雅彦 加藤康治 兼井孝之
撮影:大塚秋弘 撮影助手:堀貴人 編集:北山晃 編集協力:泰岳志 整音:中嶋泰成 音響効果:森原隆之 題字:谷真史
製作:関西テレビ放送 配給:東風
2014年 | 日本 | 106分 | BD・DCP | ドキュメンタリー ©関西テレビ放送

minna-movie.com

- 平成25年度 文化庁芸術祭賞 大賞
- 2013年 日本民間放送連盟賞 報道番組部門 優秀賞
- 第9回 日本放送文化大賞 準グランプリ
- 第21回 坂田記念ジャーナリズム賞
- 第51回 ギャラクシー賞 テレビ部門 選奨
- 第67回 日本映画テレビ技術協会 映像技術賞
- 第33回 地方の時代映像祭 放送局部門 優秀賞

ふつうの公立小学校のみんなが笑顔になる挑戦
不登校も特別支援学級もない 同じ教室で一緒に学ぶ

文部科学省特別選定



すべての子供に 居場所がある学校を作りたい。

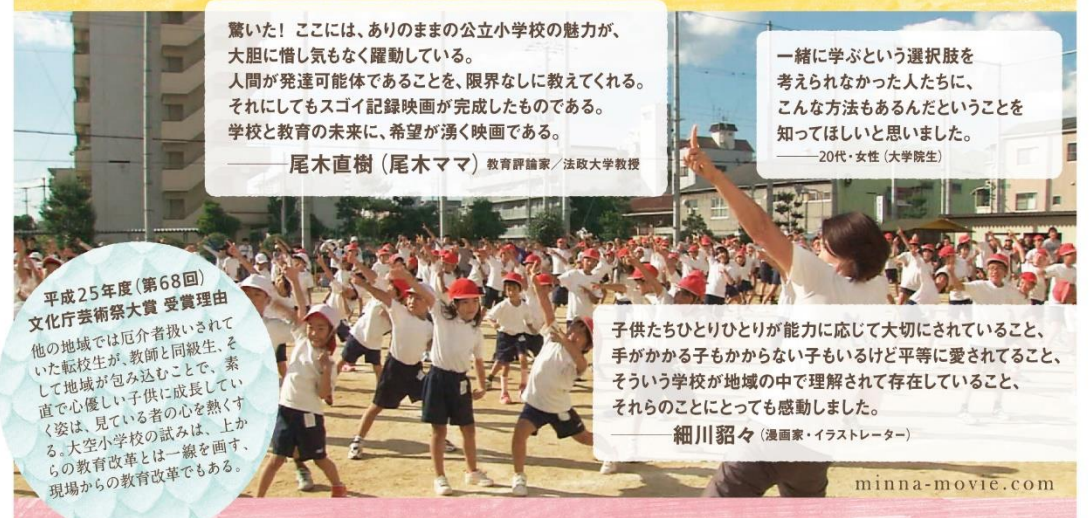
大空小学校がめざすのは、「不登校ゼロ」。ここでは、特別支援教育の対象となる子ども、自分の気持ちをうまくコントロールできない子ども、みんな同じ教室で学びます。ふつうの公立小学校ですが、開校から6年間、児童と教職員だけでなく、保護者や地域の人もいっしょになって、誰もが通い続けることができる学校を作りあげてきました。

すぐに教室を飛び出してしまふ子ども、つい友達に暴力をふるってしまう子ども、みんなで見守ります。あるとき、「あの子が行くなら大空には行きたくない」と噂される子が入学しました。「じゃあ、そんな子はどこへ行くの? そんな子が安心して来られるのが地域の学校のはず」と木村泰子校長。やがて彼は、この学び舎で居場所をみつけ、春には卒業式を迎えます。いまでは、他の学校へ通えなくなった子が次々と大空小学校に転校して来るようになりました。

学校が変われば、地域が変わる。 そして、社会が変わっていく。

このとりくみは、支援が必要な児童のためだけのものではありません。経験の浅い先生をベテランの先生たちが見守る。子供たちのどんな状態も、それぞれの個性だと捉える。そのことが、周りの子供たちはもちろん、地域にとっても「自分とは違う隣人」が抱える問題を一人ひとり思いやる力を培っています。

映画は、日々生まれかわるよう育っていく子供たちの奇跡の瞬間、ともに歩む教職員や保護者たちの苦悩、戸惑い、よろこび……。そのすべてを絶妙な近さから、ありのままに映していきます。そもそも学びとは何でしょう? そして、あるべき公教育の姿とは? 大空小学校には、そのヒントが溢れています。みなさんも、映画館で「学校参観」してみませんか。



驚いた! ここには、ありのままの公立小学校の魅力が、大胆に情し気もなく躍動している。
人間が発達可能体であることを、限界なしに教えてくれる。
それにもスゴイ記録映画が完成したものである。
学校と教育の未来に、希望が湧く映画である。
—— 尾木直樹 (尾木ママ) 教育評論家 / 法政大学教授

一緒に学ぶという選択肢を
考えられなかった人たちに、
こんな方法もあるんだということを知ってほしいと思いました。
—— 20代・女性 (大学院生)

平成25年度(第68回)文化庁芸術祭賞 受賞理由
他の地域では厄介者扱いされていた転校生が、教師と同級生、そして地域が包み込むことで、素直で心優しい子供に成長していく姿は、見ている者の心を熱くする。大空小学校の試みは、上からの教育改革とは一線を画す、現場からの教育改革でもある。

子供たちひとりひとりが能力に応じて大切にされていること、手がかかる子もかからない子もいるけど平等に愛されていること、そういう学校が地域の中で理解されて存在していること、それらのことにも感動しました。
—— 細川昭々 (漫画家・イラストレーター)

minna-movie.com